

令和5年2月市議会定例会一般質問発言通告書（発言順）

◎ 代表質問

いばら太陽の会

8番 西村 慎次郎

1. 井原市第7次総合計画後期基本計画について

平成30年3月に「輝くひと 未来創造都市 いばら」を基本理念とする「井原市第7次総合計画」が策定され、前期となる5年が経過しました。本年4月からの後期スタートに向け、令和3年度と4年度の2年間をかけて「井原市第7次総合計画後期基本計画」が策定されています。

そこで、次の6点について伺います。

- 1) 井原市第7次総合計画後期基本計画の概要、全体構成について
- 2) 重点取組①【ひと】井原を創るひとづくりについて
- 3) 重点取組②【経済】地場産業活性化と企業誘致について
- 4) 重点取組③【安心】だれもが安心して生活できる環境づくりについて
- 5) 重点取組④【夢・誇り】いばらの魅力創出と世界への発信について
- 6) 井原市第7次総合計画後期基本計画終了となる5年後の井原市の姿について

いばら市民クラブ

13番 坊野 公治

1. 令和5年度当初予算について

- 1) 第7次総合計画後期基本計画の基本目標に掲げる事業について伺う。

①井原体育館空調設備整備に向けた調査事業について

②県立井原高校南校地跡地の活用について

③地域活性化起業人活用事業について

④賑わい創出拠点整備事業（芳井地区）について

⑤放課後児童健全育成事業について

2) 第7次総合計画後期基本計画の計画実現のための共通指針に掲げる事業について伺う。

①自動車急発進抑制装置整備費補助金について

②協働のまちづくり事業について

③観光イベント補助金について

2. アフターコロナへの取組について

①3月13日以降のマスク着用の考え方について伺う。特に学校現場における取組について伺う。

②感染症法上の位置づけが5類へ移行される5月8日以降の井原市の各種行事の考え方について伺う。

1. 本市の人事行政と職員の働く意欲の高め方について

本市では今後、住民の減、税収の減、職員の減少といった難しい3つの問題に直面していきます。一方、行政には効率的な組織で迅速に成果を上げることが求められており、市民からの依存度はますます大きくなると思われます。行政の役割は“市民の幸せ度を高める”ことにあります。そのためには、まずは職員が仕事への誇り、働き甲斐や仕事満足度などが高いことが必要です。

また、今後の財政の厳しさは給与水準の悪化を招き、さらなる組織の簡素化や職員の高齢化は、昇進、昇格のスピード低下やポスト不足で働く意欲に大きく影響すると思われます。職員の働く意欲を高めるためには、本市の人事行政の仕組みが効果的であるかどうかを深く関係しているといえます。

そこで、以下の3点について伺います。

① 今後は、人手不足で官民間問わず人材獲得競争がし烈になると思われます。

本市の人材獲得に対する中長期的な採用戦略に関する考え方と、現在の採用活動について伺います。

② 新卒採用の場合、四十年以上にわたり職員として勤務することになります。

公務能率の増進のためにも体系的な教育訓練や研修機会が保障されるべきです。本市の教育体系と人材育成の基本方針について伺います。

③ 人材育成、配置、異動、給与などの人事処遇の中で、人事評価システムは人事行政の中核をなしています。本市の人事評価制度の機能と目的について伺います。

1. 市制施行70周年記念事業について

昭和28年3月に当時の後月郡井原町、西江原町、高屋町、荏原村、木之子村、県主村、青野村、山野上村、小田郡稲倉村、大江村の3町7村が合併し井原市が誕生し、本年で70周年を迎えます。その佳節を記念し本市では様々な行事を計画され70周年を祝うとともに新たな市政のスタートを切ろうとされていると考えます。そこで、現状での行事予定について、また、4月18日に平櫛田中美術館がリニューアルオープンするにあたり、市内外の多くの皆さんに来館していただくための取組をどのように考えているのか伺います。また、市民ギャラリーの活用も期待されますが、予約状況を伺います。

2. デジタル活用推進に向けての本市の対応について

デジタル化社会の中で、機器の利用の有無により利便性の格差が生まれている現状が危惧されています。特に約2,000万人の高齢者がスマートフォンを使えない状況により、行政サービスの促進等が遅滞しているとされる中、そうした状況を改善するため、国では高齢者や障がい者などデジタルに不慣れた人に対して、スマートフォンの基本的操作や、SNSやインターネットの使い方、さらにはオンラインによる行政手続きなどを丁寧に教える「デジタル推進委員」の配置拡大を促進しようとしています。本市においても高齢化が急速に進展する状況で利便性の格差を最小限に抑える対策が急がれます。そこで、次の3点について伺います。

①デジタル推進委員確保（企業・学生等ボランティア）の考えと現状について

②公民館等を利用した出前講座の開催について

③携帯電話販売代理店との連携協定について

3. 介護支援ボランティアポイント制度について

人生100年時代を迎えようとしている今、日本人の平均寿命は女性が87.

57歳、男性81.47歳と報道されています。そうした高齢化の進展に伴う介護需要の増大は、多くの地域の重要な課題の一つであります。そうした中、本市でも健康寿命日本一を目指し様々な施策や取組を展開した経緯がありますが、全国では、元気な高齢者が介護施設や在宅介護を受けられている家庭へ赴き、話相手や散歩の補助、また、施設行事等の手伝いをするなどのボランティアをすることでポイントがたまり、商品券などと交換できる仕組みを行う自治体も増えており、2020年度までに599市区町村に拡大しているとのことであります。全国で初めて導入した東京都稲城市の例では、65歳以上の住民を対象に介護施設などで活動してもらい、給付ポイントに応じて年間最大5,000円が支給されています。制度の効果を検証した大学の調査では、介護予防と地域活動への参加促進の両面で効果が確認されているとのことであり、本市としても実施に向けて検討されるべきと思いますが考えを伺います。

17番 宮地俊則

1. 井原市民病院について

1) 井原市民病院では国の示すガイドラインに沿って『経営強化プラン』を令和5年度末までに策定するため、プロジェクトチームを立ち上げ、現在検討作業を進めているとのことです。これは充実した地域医療の提供体制と財政運営の安定化を確保するための取組であると理解します。

その主な内容は大きく4点あるようです。以下の取組について、現時点での考え方や進め方などを、それぞれ具体的に伺う。

- ①市民病院が地域の中核的医療機関として果たすべき役割や機能、他の医療機関等との連携
- ②医師・看護師等の確保と働き方改革
- ③平時からの感染症対策の取組
- ④経営の効率化に向けた取組

2) 井原市民病院では産婦人科医の退職により、平成18年から分娩を休止し、妊婦さんの受け入れを停止していました。しかし、昨年11月より妊婦健診が再開されました。これは産科セミオープンシステムというもので、妊娠初期から妊娠32週までの妊婦健診は市民病院で受診し、33週以降の妊婦健診や分娩は分娩施設のある病院などで行っていただくことで、分娩の安全性と妊婦さんの利便性が図られるというものです。

そこで、以下の2点について伺う。

①開設されてからの利用状況、妊婦さんの評価、市民への周知方法

②今後の課題

2. 特殊詐欺被害の防止策について

特殊詐欺による被害が後を絶ちません。最近ではますます悪質、凶悪化し、強盗殺人にまで発展して連日報道されているところです。全国的に被害が増える中、中国地方では3年連続被害額は増加しており、岡山県下では昨年、被害総額は3億円を超え、井原市でも昨年、1千万円を超える被害を受けた方がおられます。こうした被害を受けられた方の8割以上が高齢者であり、その8割が自宅の固定電話から被害を受けられています。

この件は以前にも一般質問で取り上げ、本市ではその被害防止のため、通話録音装置を1年間無償で貸し出しているとのことでしたが、利用状況は芳しくありませんでした。防犯意識の機運が高まっている今こそ、強力に普及を押し進めていくべきだと思いますが、考えを伺う。

3. 保育園の「おむつの持ち帰り」について

保育園で子どもの使ったおむつを保護者が処分する「おむつの持ち帰り」について、従来は当然のように行われていたものが近年では衛生面や保護者負担に配慮し、園で廃棄する地域が全国的に増える傾向にあるようである。

本市の現状について伺う。

1. 公共施設等総合管理計画の見直しと進捗状況について

平成29年3月に策定された、井原市公共施設等総合管理計画は、計画期間を令和8年度までの10年間とし、各種の事業を推進してきたところである。策定から7年目を迎え、当時と比べて社会情勢も大きく変化してきたと考える。令和3年9月定例会において、本計画の見直しの必要性について質問した際、市長からは、国からの通知もあり、一部見直しを検討するとの答弁があった。そこで、本計画の見直しの検討内容と現在までの進捗状況について伺う。

4番 多賀信祥

1. 市内保育園の現状と課題について

第7次総合計画では、本市の課題として、保育園のニーズが高まっていることから保育の量的拡充の必要があるとされている。また、第2期井原市子ども・子育て支援事業計画「いばらっ子ぼっけえすくすくプラン」においては、「量の見込み」、「確保の内容」、「実施時期」について記載されている。子育てしやすいまちを目指すうえで、保護者のニーズを把握し課題を解決していく必要があると考えるが、本市の現状と今後の課題について、以下の2点を伺う。

1) 待機児童の定義について

岡山市は、待機児童の定義が市民の実生活やニーズとかけ離れていたと考え、第3希望まで利用調整を行い、それでも入園できなかった児童も待機児童とすることにしたが、待機児童の定義について井原市は独自のルールを持つ考えはないか。

2) 「いばらっ子ぼっけえすくすくプラン」における教育・保育の見込みと提供体制の現状と今後の課題について

①過去5年間の保育利用率等から見る傾向と課題について

②今後の対策について

2番 三宅孝之

1. 市内中学校のスクールバッグについて

「中学校のスクールバッグは、なぜ規定があるのでしょうか。今のスクールバッグは不便なところが多いので、自由にしてほしい。」と中学生の保護者からご意見をいただきました。スクールバッグの規定について、見直しが必要ではないでしょうか。

そこで、次の5点について伺います。

①市内小学校のスクールバッグの規定について

②井原市立高校のスクールバッグの規定について

③市内中学校のスクールバッグの容量、重さについて

④市内中学校のスクールバッグの価格について

⑤スクールバッグの規定による教育的意義について

1番 沖久教人

1. 健康増進のまちづくりについて

少子高齢化・人口減少が急速に進む中、高齢になっても地域で元気に暮らせる社会を実現することが本市においても必要であると考えられる。

そこで、以下の4点について伺う。

①健康増進対策について

②健康ポイント制度について

③歩きたくなるまちづくりを目指した取組について

④データヘルス計画について

2. 道徳教育について

文部科学省は、小学校で2018年度から、中学校で2019年度から、いじめ防止対策の効果などを目的に、道徳の授業を教科に格上げし成績評価もつけるようになった。

そこで、以下の2点について伺う。

①道徳教育の現状と課題について

②道徳教育の成績評価について